

# 英語科

## 高校における授業の工夫

高橋恵亮・倉田有邦・宮田 学

山田雄一・伊藤悟由

### 〔I〕家庭学習の位置付けの明確化のための学習指導計画の工夫

伊藤悟由

#### A. 英語における家庭学習

私は、以前高等学校新入生に対して、家庭学習に対する調査を行なったことがあるが、その結果によると、新入生のほとんどは、「高校に入学したら、英語は予習を前提とした授業になり、毎日予習、復習をしなければ授業についていけなくなる。」と考えている。(1)これは、「高校英語学習における常識」と言ってもさしつかえないかもしれない。この常識は、我々教師にとっては非常に都合がよいものであり、この常識があるがゆえに、英語指導は、表面上だけにすぎないが、円滑にすすんでいる。この常識があるがゆえに、生徒は、何の疑問も持つことなく、予習、復習をして授業にのぞみ、教師も家庭学習を前提とした授業をしているのである。

それでは、なぜこのように学校教育において家庭学習が必須のものとなったのであろうか。井上弘は、その要因を次の2点にもとめている。

1. 教材の多量化による「新幹線授業」

2. 知識の保持が授業だけでは不十分(2)

第1の要因は、教材が時代とともに非常に増大し、この増大した教材をこなすためには、授業の速度を速めなければならない、そのためには予習、復習といった家庭学習にたよらざるを得ないということである。第2の要因は、仮に授業がうまくいったとしても、知識をいつまで記憶していただけるかという点でどうしても不安が残り、家庭学習を授業の延長としてあてにするようになるということである。

これらは、もちろん高校英語教育についてもあてはまる。まず、教材の多量化という点であるが、今回の学習指導要領の改訂で、幾分緩和されたが、相変わらず「詰め込み授業」をせざるを得ない状況は続いている。また、もう一つの要因である知識の保持のための家庭学習という点であるが、英語教育においては、特に技能教育という面が強く、練習が大きな位置を占めている。授業においては、練習をすべて扱うことはで

きず、家庭学習に負う面が大きく、高等学校においては練習はほとんど家庭へまわすというような場合もしばしばみられるのである。

ここで、さらに論をすすめてゆく前に、これから私が使ってゆく家庭学習の定義を述べたい。一般的には家庭学習と言えば、教師が指示する宿題、指示しないけれど自然と要求されている授業の予習、復習、そして、ラジオ、テレビの聴取など自主的な英語に関する学習のすべてが含まれている。しかし、今まで使ってきた家庭学習は、そしてこれからも使っていこうとする家庭学習という言葉は、授業に直接的に関連した予習、復習に限って使ってゆく。

#### B. 従来の学習指導案に見られる問題点

今までは、英語における家庭学習の位置について述べてきたが、これからは我々教師の家庭学習に対する取り組みに論を進めてゆく。我々の指導においては、授業は予習を前提とし、復習も欠くべからざるものとなっている。指導の流れは、予習→授業→復習の繰り返しとなり、現実には家庭学習も授業も同じ位の比重となっている。このような状況に対する我々の取り組みは充分であったのだろうか。大いに反省すべき点は多くあると思われる。

その反省すべき点の1つとして、学習指導案、特に Teaching Procedure に焦点をあててみる。まず、資料1を見てもらいたい。ここにある教案は、ごく普通の、しかもよくまとまった教案だと思われる。しかし、これを家庭学習という点から考えてみると、いくつかの問題点がある。この教案から得られる情報では、C. Consolidation にあるように、ADVANCED ASSIGNMENT を宿題に出したようです。それでは、この時間に扱っている Try A, B, Exercise 6 は、この時間のなかで解いていったのか、それとも宿題として指示があったのかわからない。また、今回学んだ STUDY, Try A, B, Exercise 6 の復習は、家庭でやることを教師は期待しているだろうが、そのこと

## 〔1〕 家庭学習の位置付けの明確化のための学習指導計画の工夫

はこの教案からはわからない。つまり、従来の教案には、予習を前提としていようと、復習を要求していようと何もあらわれてこない。予習を要求している場合と、予習を要求していない場合では、指導は大きく変わってくるはずである。しかし、学習指導案には変化がない。このような形式の学習指導案で、家庭学習を明確に意識した授業ができるだろうか。十分な家庭学習指導ができるだろうか。残念ながら、答えは否と言わざるを得ない。

### C. 家庭学習と授業過程

この学習指導案の問題点に端的に現れているように、我々が英語の指導を行なう際には、家庭学習を前提にしているにもかかわらず、明確にそれを意識していないのである。そこで、家庭学習の位置づけのはっきりした指導を行なうために、元来家庭学習とはどのようなものであるか考えてみたい。つまり家庭学習と授業過程との関係である。

井上弘は次のように述べている。「授業は、予習、復習をあてにしないで完結する認識過程」であり、「授業というものは本来予習、復習をあてにしないもの」である。しかし、現実的には授業だけでは知識の保持に不安が残り、「復習を授業の延長としてあてにするようになって」いる。(3)

井上は、このように家庭学習にあてられている部分は、本来は授業過程の一部であると述べているが、我々の経験上からもこれは妥当であると思われる。中学1年の入門期においては、予習はもちろん復習もほとんど要求しない授業が行なわれている。ところが、学年を追うにつれて、教材量が増え、生徒の英語力がつき教師の手元を離れた学習が可能になることにより、授業の一部が復習として家庭学習にまわり、さらに高等学校入学前後から、予習も要求し、それもだんだん綿密な予習を要求するようになってゆくのである。

### D. 家庭学習の位置づけが明確な学習指導計画

このような観点からすると、我々は家庭学習をあまりに軽く扱い、授業計画は綿密に立てていても、家庭学習計画はなおざりであったと言えないだろうか。今回、この反省にたち、家庭学習と授業を綿密に関係づける一方法として、次のような学習指導の手順を提案したい。

#### 学習指導の手順

1. 目標の設定
2. 学習指導計画
  - a 家庭学習を前提としない仮の指導案の作成
  - b 仮の指導案の手順の、授業と家庭学習への振り

#### 分け

- c 家庭学習を前提とした指導案の作製
3. 学習指導の実践
  4. 学習指導の評価

この学習指導の手順で注目してほしい点は、2の学習指導計画である。この指導計画においては、まず家庭学習を要求しない、すべてを授業に盛り込んだ授業計画をたてるのである。そして、そのすべての手順を授業で扱うべきか、それとも家庭学習にまわすことが可能か考慮し、これに応じて最初にした仮の授業計画を、家庭学習を要求する指導案へ構成してゆくのである。この方法は、家庭学習にあてられている学習は、本来は授業過程の一部であるという考えを指導計画のなかに取り入れたものである。この方法により、今まで単なる授業に対する生徒の自主的な準備と考えられていた家庭学習を、明確に授業の一部として授業過程の中に位置づけることができるようになるのである。

まず、aの仮の指導案の作成というのは、家庭学習は本来授業過程の一部であるということに基づき、授業(学習)の基本的流れを、家庭学習を前提としないで、決定する段階である。すべての作業は、教室で教師の監督の下で行なわれてゆくのである。

もちろんaによる指導案がそのまま授業で実践できればいいのだが、時間数等により不可能となり、家庭学習にたよることとなる。そこで必要となるのは、bの各手順の授業と家庭学習の振り分けである。振り分けをする場合の第1の観点は、学習者と教材と時間の関係である。ある単元を扱う場合、生徒の既習事項とその定着度、新単元の教材量と難易度、そして単元に配り当てることができる時間数との3要素の関係である。具体的に述べると、教材量だけに問題を絞るなら、新単元に生徒にとっての新出の学習項目が多い場合は、配当時間の関係で、予習、復習にあてる手順が多くなるかもしれないし、あるいは、逆に多過ぎて、予習をさせることが不可能になる場合もあるかもしれないということである。また難易度を問題にすると、新出項目が難しい場合は、生徒の学習状況を考慮すると、入門期のある場合のように、定着のための練習も家庭学習にまわせない場合もあるということである。

振り分けの第2の観点は、当然のことであるが、家庭学習は教師の手元を離れた学習であるということである。この点に関して、F. L. Billows は、監督なしの作業ということで、これは家庭学習と置き換えてもよいと思われるが、次のように述べている。「明らかに、ときどきの助言や援助なしで行ないにくい作業は、学校外ではうまくできないものである。」さらに、「円熟した言語使用者を苦しめる誤りのかなり多くは、

彼が援助の手のとどかない家庭にすわって、自国語で考え出された概念、しかし外国語で組み立てるにはその語学の素養がない概念を、乏しい頭からしぼり出そうとしたときつけられ、それから学ばれてしまったのである。彼がまだ自然に呼び起こすことのできない表現手段を、辞書と文法とによって捜し求めなければならなかった。彼は狭い才能をあこれ使って時間を浪費してしまうか、あるいは1枚の紙の前にすわったきりで、その心は空白状態かまたは相いれない言語の断片と概念との混乱状態におちいつているのである。」<sup>(4)</sup>このように、Billows は家庭学習がはらむ危険性について述べ、安易に作業を家庭学習にまわすことに警鐘を鳴らしている。我々も手順を振り分けるにあたっては、生徒の学習状況を考慮し、生徒が教師の指導なしで誤りをすることなく、有効に学習できるか考慮する必要がある。

第3番目の観点は、授業の力点をどこに置くか、言い換えるならば、自分の目指している授業の型である。例をあげると、問題解決学習をめざしているなら、問題の把握そして仮説の設定という段階は、生徒にとって非常に難しいと同時に、それ以上にそれが授業の「ヤマ」であり、これは家庭学習にまわせないのである。その結果として、予習を要しない場合も多いということになるだろう。また、高等学校における文法指導を中心にした授業の場合は、注入型の授業が比較的多く、予習的作業を課すことは少なく、むしろ復習として、定着のための練習を課すことになるかもしれない。

今まで述べてきた3つの観点から、aの家庭学習を前提としない仮の指導案の手順を、予習、復習そして授業と振り分けてゆく。そして最後の段階として、これは学習指導計画のcにあたるが、振り分けられた手順を、家庭(予習)－授業－家庭(復習)の流れにしたがって構成してゆく。ただ並び換えるだけでなく、大きく変更される場合が普通であろう。新しく構成された授業においては、家庭学習にまわされることになった手順というのは、教師の監督の下の場合と比較すると、その作業効果は低いと想像できる場合が多く、不足した部分を授業の中で補ってゆかねばならなくなるだろう。そのため、新しい手順が増えたり、仮に増えることがなくとも、具体的な指導法は変化してくるはずである。一方、家庭学習にまわる手順においても、教師の監督なしの作業となるため、授業の場合と同様に、むしろそれ以上に手順や指導法の変化は大きいであろう。

このようなa, b, cの手順をふんでできた学習指導案が資料4である。この指導案は、資料2にある教材をもとに、私が前年度担当していた高等学校2年の作文・文法の授業に実施したものである。資料3とし

て、家庭学習を前提とした指導案に到る前段階の、家庭学習を前提としない指導案をのせておいたので参考にしてもらいたい。授業計画においては、a～cの手順を踏んだために、家庭学習と授業を同じレベルで、1つの流れとしてとらえることができた。指導案の作製にあたっては、従来からの様式では家庭学習をその中に盛り込めないために、以下のような形式になった。

#### 指導過程

##### I 家庭学習

##### II 授業

A 復習      B 展開      C 整理

##### III 家庭学習

IIの授業は従来通りであるが、それにIとIIIの家庭学習が加わったのである。Iの家庭学習には、前時の復習と本時に対する予習が含まれ、IIIの家庭学習には、本時の授業の復習と次の授業に対する予習が明確に現わされるのである。このような形式をとることにより、前時、本時そして次へと流れがはっきりと教師自身も意識できるのである。また、この様式は、家庭学習は元来授業過程の一部であるということにも、充分なものを言える。

さて、最後に、この授業計画の手順をとることによりもたらされるだろうことを、思いつくまま、重複もあるかもしれないが述べたい。まず、この授業計画の手順は、本来は家庭学習は授業過程の一部であるということ、授業計画のなかで生かしたものであることから、授業と家庭学習に同じ力点が置かれ、しかも同時に計画され、家庭学習－授業－家庭学習という流れがスムーズになるのである。また、授業の前提としての予習、授業のまとめとしての復習が明確化され、授業の流れ自体も滑らかになると思われる。当然、指導する側の教師は、前もって家庭学習を綿密に計画しなければならず、家庭学習を授業のつけ足しや尻ぬぐいとして考えることなく、授業と同じレベルに置き、より効率的な指導が可能となる。一方、指導を受ける生徒にとっても、教師の明確な授業と家庭学習の意識により、家庭学習の授業の中での位置づけがはっきりわかり、目的意識を持ち主体的に家庭学習に取り組むことが可能になる。また、教師が生徒に示す家庭学習の内容や方法の指示は明確化されるだろうから、「何をやってよいか勉強の方法がわからない」という声の解消にもつながってゆくだろう。

- (1) 伊藤 悟由 「高校入学時における家庭学習及び意識調査」(『名大附属学校紀要』第27集)。
- (2) 井上 弘 「授業過程と予習・復習のかかわり」

[1] 家庭学習の位置付けの明確化のための学習指導計画の工夫

(『授業研究』第223号)。  
(3) 同上。

(4) F. L. Billows 『外国語教育の指導技術』  
(大修館, 1972年)76頁。

資料 1

TEACHING PLAN [高校1年・作文]

Instructor Katsuko YAMAMOTO

- I Date Thursday, June 10, 1976  
 II Class I-3, The Attached Senior High School, Hiroshima University  
 III Text *A New Guide to English Composition 1*, Lesson 6 "A Visit to Japan"  
 IV Aims of this lesson  
 A To help the students to have a conversation on a future plan  
 B To help the students to become familiar with the following items and to make use of them in their conversation  
 Grammar  
 I am going to travel with my sister  
 I hope you will have a good time at the party  
 Idioms and expressions  
 I hear . . . spend . . . show . . . around, have a good time, etc  
 V Teaching procedure  
 A Review  
 1 Tape-listening  
 2 Question answering  
 3 Oral composition  
 B Presentation of the new material  
 1 Tape listening  
 2 Question answering (Try A)  
 3 Reading of the text  
 4 Explanation of grammar, idioms, and expressions  
 5 Exercises (Try B, Exercise 6)  
 C Consolidation  
 Presentation of an advanced assignment

TRY A

- ◎ STUDY を読んで、次の問いに英語で答えなさい。  
 1. What country is Bob going to visit this summer?  
 2. Is he going to make the \*trip alone?  
 3. Does Bob have a pen pal in Japan?  
 4. What is his pen pal going to do for them?  
 5. Is Susan also going to visit Japan this summer?

trip 旅行

6. 日本訪問

STUDY

I hear (that) スーザン 「ゴブ、この夏日本へ行くそうね。ほん  
 ..だそうだ とう。」  
 ボブ 「うん、<sup>1)</sup> ジェーンとはくは3週間日本へ  
 行ってくるんだ。」  
 スーザン 「いいわね。東京にはペン・パルがいるん  
 でしょう。」  
 show ~ around ゴブ 「うん。<sup>2)</sup> 彼女が案内してくれるんだ。」  
 ~を案内する スーザン <sup>3)</sup> 「楽しく過ごせるといいわね。」  
 have a good time ゴブ 「ありがとう、スーザン。きみはこの夏  
 楽しい時を過ごす はどんな計画なの。」  
 California [kælɪfɔːnjə] スーザン 「そうね、カリフォルニアのおじの農場  
 に行くつもりよ。」

• ANOTHER WAY TO SAY IT

- 1) Jane and I are going to stay in Japan for three weeks  
 2) She'll be our guide  
 3) I hope you'll enjoy the trip

TRY B

◎日本語を参考にして、次の対話を完成しなさい。

A How are you going to spend this summer, Susan?  
 Susan ①おじの農場を訪れる  
 A \*With whom?  
 Susan ②両親と妹  
 A Will you have to help your uncle on the farm?  
 Susan ③少し手つだらう

【復習教材】

Our Dog Spot

STUDY

I usually take Spot for a walk before breakfast. It was raining hard this morning, so I did not take him out. He looked sad.

I left home later than usual. I hurried to the bus stop and <sup>1)</sup> was just in time for the bus.

<sup>2)</sup> I was surprised to find Spot on the bus with me. Perhaps he thought I was going for a walk without him. I had to get off with him. But, fortunately, just before the bus started, my mother came running up and took him home.

• ESSENTIALS (過去形—不規則動詞)

- a) I left home for school at 7:00  
 b) Bob had to get off with him  
 c) I thought he knew me  
 d) My mother came running up

【新教材】

A Visit to Japan

STUDY

Susan Bob, I hear that you're going to visit Japan this summer. Is that true?

Bob Yes, <sup>1)</sup> Jane and I are going to spend three weeks in Japan.

Susan Fine. You have a pen pal in Tokyo, don't you?

Bob Yes. <sup>2)</sup> She's going to show us around.

Susan <sup>3)</sup> I hope you'll have a very good time.

Bob Thank you, Susan. What are your plans for the summer?

Susan Well, I'm going to visit my uncle's farm in California.

• ESSENTIALS (未来形)

- a) How are you going to spend this vacation?  
 b) I am going to travel with my sister.  
 c) Bob is not going to visit the farm.  
 d) I hope you will have a good time at the party.

A How long will you stay there?

Susan ④2週間

With whom? = Who (are you going to go) with?

EXERCISE 6

A. 次の文の ( ) 内の語を適当な形にかえなさい。

1 It (rain) very hard yesterday, so I (can) not play tennis with my brother. I (play) tennis next Sunday if it is a fine day.

2 Teacher I (give) you a reading assignment for this summer.

Student What is it?

Teacher Oscar Wilde's *The Happy Prince*. I'm sure you (enjoy) the story.

B. ( ) 内の日本語を英語にかえて、次の文を完成しなさい。

1 I hope you will (わたしの贈り物が気に入る).

2 My father is (あしたブラウンさんとゴルフをする).

3 Are you (ニューヨークでおじさんに会う)?

4 Where is Bob (この夏を過ごす)?

5 Will you (わたしに夏休みの計画について話す)?

C. 次はボブが友人のスーザンにあてた手紙の一部です。下の日本語を英語にかえて、空所に入れなさい。

It is hard to see the sights of Tokyo in a few days. It is very big and full of excitement. I can see something new and something old everywhere.

① Kabuki is one of the oldest stage arts in Japan.

② I am going to stay there for a week.

③ I will write to you again soon. ④

① あすは歌舞伎を見るつもりです。

② 来週は東京をたって、京都へ向かいます。

③ 天気がよければいいと思います。

④ おかあさんによろしく。

ADVANCED ASSIGNMENT

▷ 夏休みに、アメリカへ行くことになっている友人との対話を英文でまとめなさい。滞在期間と目的をはっきりさせて、次の書き出しではじめなさい。

A I hear you're going to America this summer. Is that true?

B Yes ...

※ 垣田直己編『英語指導法ハンドブック②授業類型編』(大修館, 1978年) 346~349頁。

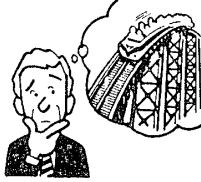
資料2 教材 Iwata's English Composition (Revised Edition) Book 2

復習教材

4 態

An Accident

There is an amusement park not very far from my house. It **was reported** that yesterday a roller coaster fell to the ground and that several people **were** seriously **injured**. It **was also reported** that they **were taken** good **care of** in the nearby hospital, and fortunately no one **was killed**. I was going to take my family there one of these days, but I **was forced** to give up the idea



- Oral Practice**
1. What happened in the amusement park yesterday?
  2. Was anyone seriously injured in the accident?
  3. Where were the injured persons taken care of?

- |                 |  |
|-----------------|--|
| ①それはみんなが知っている。  | That is <i>known to</i> everybody.     |
| ②バターは牛乳で作る。     | Butter is <i>made from</i> milk.       |
| ③この人形は木でできています。 | This doll is <i>made of</i> wood.      |
| ④道は雪でおおわれていた。   | The road <i>was covered with</i> snow. |

I 「～に(よって)」は by 以外の前置詞を用いることもある。  
 例 人は交わる仲間によって人がらわかる。  
 A man is *known by* the company he keeps (⇒①)

- |                     |                                       |
|---------------------|---------------------------------------|
| ⑤タイタニック号は1912年に大西洋で | The Titanic <i>was shipwrecked</i>    |
| 難破した。               | in the Atlantic in 1912.              |
| ⑥顔にインクがついているよ。      | Your face is <i>smeared with</i>      |
|                     | ink.                                  |
| ⑦私は彼の成功を確信している。     | I <i>am convinced of</i> his success. |

II 日本語では能動態の表現が英語では受け身の表現になる場合

- 1 被害・好ましくないできごと
- 2 日本語と英語の表現・発想法がちがう場合
- 3 慣用句

- III 次のような慣用句に注意。
- |             |                        |
|-------------|------------------------|
| (～に)確信がある   | be convinced (of ~)    |
| (～を)恥じる     | be ashamed (of ~)      |
| (～に)慣れている   | be accustomed (to ~)   |
| (～と)知り合いである | be acquainted (with ~) |
| 生まれる        | be born                |
| やむなく～する     | be forced to ~         |

- |                          |  |
|--------------------------|--|
| ⑧彼はフットボールをしているときけがをした。   | He <i>got hurt</i> while he was playing football.    |
| ⑨その事実はだんだん私たちみんなにわかってきた。 | The fact <i>gradually became known</i> to all of us. |

III 「～れる [られる]」という動作を強調する場合  
 get [become, etc] + 過去分詞

- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| ⑩彼はみんなに笑われた。                    | He <i>was laughed at</i> by everybody.   |
| ⑪日本の最初の人工衛星は1970年に内之浦から打ち上げられた。 | The first Japanese man-made satellite <i>was sent up</i> from Uchinoura in 1970. |
| ⑫そういう悪い癖はすぐにやめなければならぬ。          | Such a bad habit <i>must be put an end to</i> at once.                           |
| ⑬彼は人からよく言われている。                 | He <i>is well spoken of</i> by others.   |

IV 「動詞+前置詞・副詞」、「動詞+目的語+前置詞」、「動詞+副詞+前置詞」などの動詞句は、まとめて1個の動詞として扱う。

例 ⑭=Others *speak well of* him

- |                |                                      |
|----------------|--------------------------------------|
| ⑭この本はよく売れる。    | This book <i>sells well</i> .        |
| ⑮この肉はなかなか切れない。 | This meat <i>doesn't cut</i> easily. |

V 受け身の意味をもつ自動詞に注意。

Reproduction

- ①私の家からあまり遠くないところに遊園地がある。
- ②昨日、ローラーコースターが1台落ち、数人が重傷を負ったということだ。
- ③また、その人たちは近くの病院でじゅうぶん手当てを受けたが、辛いにも死者はなかったようだ。
- ④私は近いうちに家族を遊園地へ連れて行こうと思っていたが、やむなくその計画をあきらめることにした。

Additional Exercises

EXERCISES (Additional Exercises p 44)

A [ ] 内の語を英語に直し、下線の語におきかえて全文を言いなさい。

1. Cheese is made from milk.  
 [(1)紙, 木 (2)酒, 米 (3)ワイン, ぶどう]
2. A dog was run over by a dump truck.  
 [(1)その女の子, 育てられた, おじいさん]  
 [(2)その事件, 調査されるだろう, 警察]

B 英語で表現しなさい。

1. スキー客たちは雪が少なくてがっかりした。
2. 勝利の知らせを聞いた村の人たちは非常に興奮状態になった。  
 (「興奮した」)
3. 彼はけがをしており、衣服はどろまみれたった。  
 (「とろでおおわれていた」)
4. その外国人とはいつからお知り合いですか。(how long を用いて)
5. この川では夏、毎年のように子供がおはれる。(「ほとんど毎夏」)
6. けさ沼津駅付近で列車が脱線した。しかし辛い死傷者はなかったと聞いてほっとした。(「ひとりも死んだり、けがをしなかった」)

IV 「感情・災害」に関する表現

- |              |                                      |           |                       |
|--------------|--------------------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 (～に)がっかりする | be disappointed [discouraged] (at ~) | 2. ~に興奮する | get excited at [by] ~ |
| 5 おはれる       | drown, be [get] drowned              | 6 脱線する    | derail; be derailed   |
| ~してほっとする     | be [feel] relieved to ~              |           |                       |

Lesson 4 態

1. 英語は国際語で、世界じゅうで使われている。
2. さいふがなくなっているのに気がついて、私はとても驚いた。
3. その山の頂上は一年じゅう雪でおおわれている。(all the year round)
4. 英語を話すとき、まちがいをするのを恥ずかしくてはいけぬ。  
 (make mistakes)
5. けさ近くに小さな火事があったが、消防車が来ないうちに消えた。  
 (a fire engine / be put out)
6. 午後9時30分東京発鹿児島行きの特急列車は、岡山駅付近で脱線転ぶくし、死者4名負傷者30名を出した。(overturn)
7. 彼は詐欺で訴えられたが、われわれは彼の無罪を確信している。  
 (be accused of committing a fraud / innocence)
8. その洪水で水家屋5千、死者8百以上と言われている。  
 (「5千の家屋が水はしにされた (be flooded)」)
9. この雑誌は旬刊で、たいへんよく売れる。(「月に3回発行される」)
10. 子供たちは遊び疲れると、草の上に腰をおろした。  
 (「遊ぶことに疲れる (be tired from ~)」)

資料 3

家庭学習を前提としない仮の学習指導案

A 復習

1. 範例文の音読
2. 範例文のなかの文法, 熟語, 単語の確認
3. 表現例文の音読
4. 表現例文のなかの文法, 熟語, 単語の解認
5. 表現例文の暗記
6. 表現例文に関する口頭作文
7. 表現例文に関する小テスト
8. 小テストの解説, 解答

B 展開

1. Ex. Aの口頭練習
2. Ex. B, Additional Ex. による作文練習
3. その解説, 解答

C 整理

1. Ex. B, Additional Ex. の誤りの原因の解明
2. 誤りの原因, 及び未知語, 表現の暗記
3. Ex. B, Additional Ex. の作文練習(ノート, 脚注, ヒントを見ないで)

資料 4

学習指導案

日 時: 6月2日  
学 級: 第2学年C組  
指導者: 伊藤 悟由

1. 教材 態
2. 教科書

IWATA'S English Composition  
(Revised Edition) Book 2, Lesson 4

態

3. 配当時間 3時間
4. 本時の位置 3時間中の第3時間目
5. 本時の目標

態に関する基本的な知識を使い, 短い日本語の文の内容を英語で表現できるようになること。

6. 指導過程

I 家庭学習

1. 範例文の音読
2. 範例文のなかの文法, 熟語, 単語の確認
3. 表現例文の音読
4. 表現例文のなかの文法, 熟語, 単語の確認
5. 表現例文の暗記
6. Ex. A, B, Additional Ex. による作文練習

II 授業

A 復習

1. 範例文, 表現例文の音読
2. 範例文, 表現例文のなかの文法, 熟語の簡単な説明
3. 表現例文に関する口頭作文練習
4. 表現例文に関する小テスト
5. 小テストの解説, 解答

B 展開

1. Ex. Aによる置換練習
2. Ex. B, Additional Ex. の解説, 解答

C 整理

1. Ex. A, B, Additional Ex. の誤りの原因の解明

III 家庭学習

1. Ex. A, B, Additional Ex. の誤りの原因の確認
2. 誤りの原因と未知語・表現の暗記
3. Ex. B, Additional Ex. の作文練習(ノート, 脚注, ヒントを見ないで)

LESSON 6 THE SILVER ELEPHANT

GRAMMAR

A 不定詞の基本的用法

a 名詞的用法

→ \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

b 形容詞的用法

\_\_\_\_\_

\*前置詞が必要な場合  
 He has no house to live in.  
 cf. live in a house

c 副詞的用法

1. 目的

\_\_\_\_\_

2. 原因

\_\_\_\_\_

3. 理由

He must be crazy to do so.

4. 結果

He lived to be eighty.

His son grew up to be a musician.

5. 形副を修飾する場合

English is difficult to master.

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\*

その他不定詞を使った表現

1. ask + O + to 不定詞

- tell
- want
- invite
- expect

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

2. 疑問詞 + to 不定詞

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

B 未来の意を表わす表現

a be going to

1. 近接未来

The bridge is going to fall down.

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

2. 意志未来

Are you going to take the examination?

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

b be about to

The moon is about to rise.

Something unusual is about to happen.

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

c 進行形

You are coming to the party tonight, aren't you?

He is playing in the concert tonight.

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_